

きらめき人

「誰かの役に立つ！」有言実行の隊長、東奔西走中

佐藤 良夫さん



多くの知人から依頼され語り部として復興途上の町を案内している。一方、少年時代に親しんだ袖浜の海岸を『北の恋人岬』として復活させるプロジェクトも展開中。

YOSHIO SATO

手 津川（昭和35年）直後、壊滅した志津川の街を多くの自衛隊員が復旧作業に汗を流していた。中学生だった良夫さんは、腹を空かせて荒砥の自宅に帰る途中、ある隊員から声をかけられた。「俺たちの作ったカレー食べてって」友人と躊躇していたが、あまりにも勧めるので「ちそうになったらものすごくおいしくて驚いた。自衛隊には怖い印象しかなかったのだが、彼らの一生懸命な活動や思いに気持ちは奮い立った。「将来は、人の役に立ちたい！」高校卒業後、その決意を胸に航空自衛隊に入隊。厳しい訓練を体験しながらも任務を遂行した。部下を指導する立場になると敢えて鬼に徹した。「我々の任務は人の命が掛かっているからね」と語気を強めた後、「そんな鬼隊長だけど、仕事を離れると優しい兄貴のようだとよく言われた。退官後の現在も全国にいる部下や後輩と交流している。かつて災害を受けた地域に派遣されたとき、住民から温かく迎え入れられたのが嬉しかったので、東日本大震災後も自衛隊員やボランティアさんの活動に積極的に協力している。恩返しだね」と熱く語る。

古希を迎えた良夫さんだが、鍛えた体は健康そのもの。これからも地域の皆さんと協力して暮らしやすい町をつくらうと日々走り回っている。

集う、起業家たち

地域で創る “木質カスタマイズ建築”

土

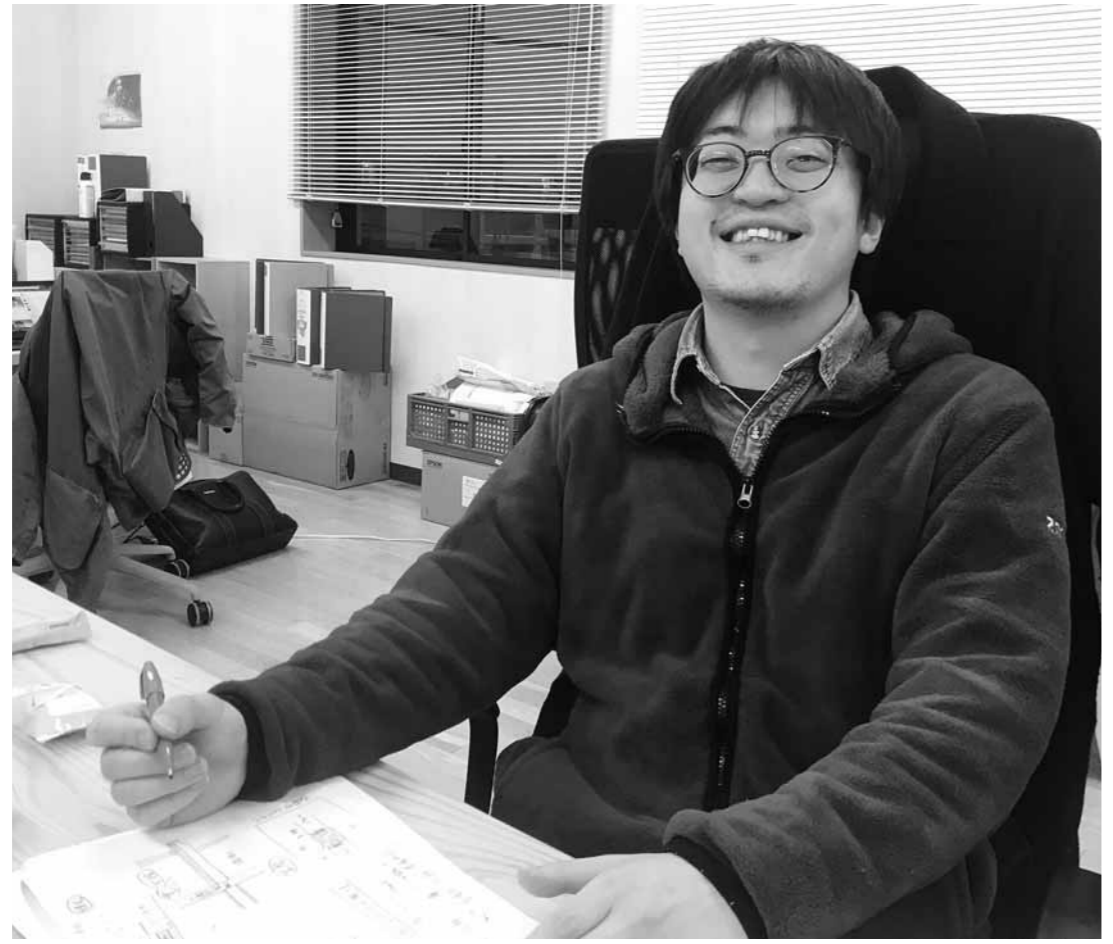
地の7割以上を森林が占める南三陸町。豊かな森から生まれる森林資源が、建築の現場でより活用されるよう地域おこし協力隊員として取り組むのが、福島生まれの羽根田将宏さん。「地域で創る、木質カスタマイズ建築」をコンセプトに、2018年1月から活動にいらしている。

カスタマイズ建築とは、建物を建てた後でも比較的気軽に増築や減築が可能な造りを指すという。例えば、子どもが生まれたら子ども部屋を増やしたり、子どもが巣立ったら不要な部分を誰かに販売したりすることがあります。その仕組みを実現可能にするのが、近代的なパネル工法と、地元の大工さんたちの持つ日本古来の建築技法を組み合わせたという、建築を学んできた将宏さんのアイデアだ。

「地域で創る」というコンセプトには、地域の木材などの資源を使うだけでなく、地域の手が加わることや、土地の文化や土地で感じられることを反映させる、という意味を含んでいます。将宏さんの挑む建築には、新たな暮らしの地で、彼が感じたこと・出会った人たちの要素が加わる予定だという。

「今年の夏頃を目標に、モデルハウスを1つ創る予定です。なるべく多くの人に見ていただける場所に設置したいと考えているので、そこで一緒にお茶っこしましょうっ！」

MASAHIRO HANEDA



羽根田 将宏さん

新たな建築物の考案や販売とともに、それをういたエリア開発にも挑みたいとのこと。今年の目標は「この地域らしい遊びをたくさん見つけること！」

南三陸なう 検索 もっと詳しく知りたい人は、南三陸町公式ブログ 南三陸なうをご覧ください。